

急な冬将軍の訪れに、防寒レベルもさらに一段階アップとなりました。定期的な部屋の換気が呼びかけられており、この冬は屋内外を問わず、寒さときあうことになりそうです。

現在会員登録数 3,446 人さま。次号は 1 月 20 日発行の予定です。／

☆。.:*。★。.:*。☆。.: 目次 *。☆。.:*。★。.:*。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.:*。★。.:*。☆。.: *。★。.:*。☆。.:*。★。

【1】お知らせ

● IICLO（大阪国際児童文学振興財団）移転 10 周年記念

オンライン・フォーラム「子どもの本の現在（いま）と未来（これから）」
視聴申込受付中！

講師：

宇野 和美 さん（翻訳家、国際児童図書評議会副会長）

富安 陽子 さん（児童文学作家、当財団評議員）

竹下 晴信 さん（日本児童図書出版協会会長・評論社代表取締役社長）

宮川 健郎 （児童文学者、当財団理事長）

司会＝土居 安子 （当財団総括専門員）

視聴期間：配信中～ 2021 年 2 月 1 日（月）

募集期間：受付中 ～ 2021 年 1 月 26 日（火） 視聴料：1,300 円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」から

イベント URL <https://10th-forum.peatix.com>

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#10thforum

● 講演会「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」

オンラインでの視聴申込受付中！

講師：三宅 興子 さん（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

視聴期間：配信中～ 2021 年 2 月 25 日（木）

募集期間：受付中 ～ 2021 年 2 月 18 日（木） 視聴料：1,500 円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」から

イベント URL <https://shikakeehon.peatix.com>

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#021128koenkai

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のためにー 記念寄付のお願い
皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。
年間 1 万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！
詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>
公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム

■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『with you (ウイズ・ユー)』 濱野京子/作 中田いくみ/装画・挿画 く
もん出版 2020年11月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学 3 年生の悠人は、高校受験のこと、両親の別居のこと、優秀な兄が母親により愛されていることなど、もやもやした気持ちを抱いて毎晩夜に走っていて、ある夜、隣の校区にある公園でブランコに乗っている一人の少女を見かける。何度も見かけるので、声をかけ、家まで送り届け、少しずつ知り合っていく。そして、この中学 2 年生の朱音（あかね）が病気の母と小学 2 年生の妹の面倒をみていることを知る。

T：前半は朱音がなぜ、毎晩公園のブランコにいるのかという謎解きで読ませます。

Y：悠人の塾の友だち情報で、私立の学校を退学して公立中学に来たこと、生活が乱れていることがわかり、悠人といっしょにドキドキしました。

T：二人が知り合うまでの過程がちょっともどかしい気もしたけれど、このもどかしさは、恋愛関係になるまでのドキドキともとれるし、朱音が誰にも自分の境遇を話せない状況を実感するということでもあったと思いました。

Y：朱音は学校では自分のことを話せないけれど、悠人には母の病気のことや妹の世話、家事をしていることなどを話します。悠人はどんどん朱音にひかれていきますが、これで恋愛成就とならず、朱音は悠人の思いを「同情」だと言って拒絶します。

T：僕は子どものときに家族に病人がいたので朱音の気持ちが理解できるように思います。自分の家の中のことは学校では誰にも言えないし、たとえ言ったとしても、そう簡単にわかってもらえない。子どもにとって、病人と時間をともにすること、家事などで時間を束縛されること、そして朱音のばあいは単身赴任の父親がいるのでそこまでもありませんが、経済的な制約があることは「子ども」ではいられない子ども時代を過ごすということなのです。

Y：悠人という視点人物が朱音の状況を理解することで読者の理解を導いてくれます。そして、悠人も自分自身を客観的にみられるようになってくる場所もいいなと思いました。

T：悠人の母は、悠人にヤングケアラー（18歳未満で、家族の世話や家事をしている子ども、p.98）について語り、朱音に助言します。悠人はその母の姿に社会人としてのプライドを感じ、一人の大人としてみるようになります。

Y：そしてこの年代の多くの子どもが興味津々の「恋愛」がテーマになっているながら、絵に描いた恋愛ではなく、人間同士の理解の上に成立する恋愛として描かれている点が作者の濱野さんらしいと思って読みました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第64回「鳥箱先生とフウねずみ」

教育への厳しい視線

あるうちにあった鳥かご（鳥箱）は、〈天井と、底と、三方の壁とが、無暗に厚い板でできていて、正面丈けが、針がねの網でこさえた戸〉でできていました。

ある日、人間により子どものひよどりがその中に入れられます。子どもがいやがってバタバタすると〈バタバタ云っちゃいかん〉。母の名を呼んで泣くと〈泣いちゃいかん〉。鳥箱はそう言ったことから〈ははあおれは先生なんだな〉と気づきます。ひよどりは、その後エサをもらえず絶命。次に来たひよどりの子は腐った水で、その次は空や林が恋しくて、四番目は乱暴な猫大将につかまえられて、死んでしまいます。

すっかり信用をなくした鳥箱先生は物置に入れられますが、そこで鼠から〈フウ〉という子どもの教育を頼まれます。鳥箱先生はフウを呼び止めて、〈ちよろちよろ歩かない〉〈きよろきよろし〉ないなど訓示しますが、フウはそのたびに虱やけしつぶなどを引き合いに出して“自分が一番立派”と主張します。

怒った鳥箱先生はフウの母親に〈退校〉を言い渡します。そのとき猫大将がやってきて、フウを地面にたたきつけます。そして、〈ハッハッハ、先生もだめだし、生徒も悪い。先生はいつでも、もっともらしいうそばかり云っている。生徒は志がどうもけしつぶより小さい。これではもうとても国家の前途が思いやられる〉と述べて物語は終わります。

描かれる人物はどれもみんな権威的であったり、欺瞞的です。

鳥箱は、形式的な借り物の徳目を訓示するだけで、生徒の死に対しても〈哀れなことだ〉とまるで他人事です。フウも志小さく、何か言われるといつも穴の中に逃げ込む（親の庇護にすぎる）存在であり、〈国家の前途〉を嘆く猫大将も自らの欲望のために登場するだけで、極めて利己的です。物語は、こうした者たちの愚かな競い合いの構図を持ちつつ、語られない人間が背後にいることに読者は気づかされ、その存在について考えさせられます。

ところで、人間によって手作りされたであろう「鳥箱」は、どこかにわか仕立ての先生を思わせます。我が国で小学校教員数が急増するのは明治40年以降のことで、当初2.7万人であったのが41年に10万人を、大正13年には20万人を超えています（文科省『学制百年史』資料編）。就学率の急上昇等に伴

うものですが、明治末から大正後期に至って、資質・能力の低い教員への社会的批判が高まります。まさに賢治が教育を受け、また自ら教員であった時期に重なります。賢治童話に教育や教員に対する批判的な視線があるのは、教える側、教わる側の目的や志が稀薄になった当時の背景も一因なのかもしれません。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『ポラーノの広場』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 18

「おかねは いいよ。これ、クリスマスプレゼント。じつはね、うちにはもう サンタクロースが きたみたいなんだよ。」

（『くつしたあみのおばあさん』 おそのえけいこ/作 スズキコージ/絵
PHP 研究所 1995年2月）

一人暮らしのおばあさんは、一年中「しまもように はなもよう、ゆきの もように ほしの もよう」の毛糸の靴下を編んで、クリスマスイブの日だけ、靴下を売ります。編物の時間を取られたくないで、「だれかと おしゃべりをしたり、おちゃを のんだりするのは きらい」。12月24日も、お客さんには不愛想です。その日の夕方、男の子がやってきて、1足分のお金がなくて、靴下を片方だけ買って帰ります。

その夜、おばあさんは、「いつ しんだって いい」といいながら、男の子が買わなかったかたほうの靴下をベッドにつけて寝ます。すると、朝、靴下の中にくろねこが入っていました。おばあさんは、ねこと暮らし始め、町で男の子に再会します。そして、クリスマスにとらねこをもらったという男の子は、おばあさんの家に遊びに来るようになります。

冒頭の引用は、次のクリスマスイブの日、男の子が前の年に買い損ねた片方の靴下を買いだいたいといったときのおばあさんのことばです。ねこというパートナーと男の子という友だちを得たおばあさんは、靴下を男の子にプレゼントし、このことばを言います。さて、サンタさんがくれたプレゼントとは？？？

スズキコージの絵ががんこでこだわりが強く孤独なおばあさんと、そんなおばあさんの心の中に入ってきたくろねこ男の子の様子をあたたく描いています。「キダかな」という書体の文字もおしゃれでクリスマスらしい絵本です。（Y）

《4》 行って来ました！

今回は、大阪府立中央図書館で12月27日まで開催されている、国際児童文学館移転開館10周年記念 展示「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめて」を紹介します。

この展示は、国際児童文学館に寄贈された三宅興子さん（梅花女子大学名誉

教授、当財団特別顧問)の蔵書を中心に、19世紀のものから現在購入できるものまで、イギリス、アメリカ、ドイツなどの外国のしかけ絵本や日本のしかけ絵本が67点展示されています。作品選択や解説執筆も三宅さんによるものです。

(大阪府立中央図書館 国際児童文学館の展示ページをご参照ください。
<http://www.library.pref.osaka.jp/site/jibunkan/shikake.html>)

約200年のしかけ絵本の歴史が、具体的な資料を示しながら、パネルで解説されています。洋書のタイトルが邦訳されていて、どんな内容の本か想像でき、しかけがわかるように工夫して展示されています。動きがわかる写真や動画もあります。

フラワーの『シンデレラ、または小さなガラスの靴』(1814)は、シンデレラの顔部分だけを、物語の場面にそった衣装や背景のパーツにすげ替えて楽しむもので、それぞれの場面に顔をつけた状態の写真も展示されています。ドイツのロウザ・メッゲンドルファー(1847-1925)の本は、一つのタブを動かすだけで複数個所の絵が動くしかけで、『新しい動物の絵本』(1890)は、4わのにわとりがバラバラの動きで餌をついばむのがとても不思議です。ヴォイチェフ・クバスタの『ヘンゼルとグレーテル』や『赤ずきんちゃん』などの昔話ポップアップ絵本は、どれもあたたかい色合いの美しい絵で、『眠れる森の美女』(1961)のタブをひくと王子様がキスをするしかけになっています。

11月28日には、当財団主催の講演会で、この展示を基に、展示以外の貴重資料も加え、しかけ絵本の魅力について三宅さんにたっぷりご講演いただきました。講演会を収録し、編集した映像をインターネットで有料配信しています。配信期間は12月22日から2021年2月25日までで、お申し込みいただいた方は、期間中何度でもご覧いただけます。ぜひご視聴ください。(K)

*お申し込みはこちらから：<https://shikakeehon.peatix.com>

【3】全国のイベント紹介

●「だれも知らないレオ・レオーニ展」

会期：10月24日(土)～2021年1月11日(祝) 月曜、年末年始休館

時間：9:30～17:00 観覧料：有料 *日時予約制

場所：板橋区立美術館

主催：板橋区立美術館、朝日新聞社

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント ☆

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『with you (ウィズ・ユー)』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メル

